

## 農山村集落の暮らしと活力について

清和クラブ  
車戸明良



**問** 中山間地域等直接支払制度の「集落機能強化加算」は「営農に関するもの以外」を対象としており、住み慣れた地域で暮らし続けるために、高齢者の見回りや送迎、買い物支援、雪下ろし、配食サービスなど地域の困りごとの解決に活かせるが活用する考えは。

**答** 94集落が対象となり、年間の交付金額は約3千6百万円を想定。この取組は、業務委託や新たな人材確保に支援ができる。まちづくり協議会など他の団体との連携も可能。集落へ周知し、他市の先進地事例の紹介など制度活用が進むよう積極的に取り組む。



## ヤングケアラーの社会的認知度向上を図れ

高山市議会公明党  
山腰恵一



**問** ヤングケアラーは、家族の介護や世話を担う18歳未満の子どもをいう。市の実態に具体的な支援やサポートをどうつなげているのか。政府は今年度からの3年間を認知度向上の集中取組期間としている。市はどう推進を図るのか。

**答** 県の実態調査では、6名の児童生徒が報告されている。ヤングケアラーは、本人や家族に自覚がないなど表面化しにくいいため、各分野が連携し市がパイプ役となって支援につなげている。様々な媒体を活用した広報活動の機会を捉えて認知度向上を進めていく。



## 新しい技術や企画の積極的導入を!

高山市議会公明党  
中 箴 博 之



**問** 市は実績や前例を重視するあまり一歩出遅れるという印象であるが、成長戦略として新しい技術や企画をキャッチする感性と果敢にチャレンジする決断力が求められている。

市として新規参入を望む事業者からのアプローチを受け入れる態勢は十分と言えるのか。

**答** 市民サービスの向上や業務の効率化など、市としてメリットがあるかどうかという観点で、可能性を排除することなく可能な限り事案を聞く場を設定している。

社会の変化は想像以上に速いので、スピード感や柔軟性をもってあたることが欠かせない。



## 食料安全保障と農業振興に市の支援策を

たかやま自民クラブ  
西本 泰 輝



**問** 畜産農家の粗飼料購入助成が補正予算に計上されているが、肥料・燃料・農薬・資材の高騰も農家を直撃しており、早急な支援策を講じるべきである。また、安定した農業経営のため、クリーン農業や自然エネルギー活用に注力し、自給的農家の推奨・支援も行うべきではないか。

**答** 国や県の動向も注視しつつ、肥料などの納入業者や農家にも聞き取りを進めており、早急に必要な支援策を検討する。また、国の「みどりの食料システム戦略」に基づく有機農業等が増える取組や、様々な形態の農家が生き生きと農業を継続できる基盤づくりに努める。

